

公表

事業所における自己評価総括表（児発）

○事業所名	アスラボさばえ		
○保護者評価実施期間	2024年 12月 16日		～ 2024年 12月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	2024年 12月 23日		～ 2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月17日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放デイで行っているLD支援のノウハウを生かし、就学後に表面化することが多い読み書きの困難さを早い段階でみつけ必要な療育を行っている。	遊びや活動の中で語彙の量や数の概念等がどの段階にあるのか見極め、必要な支援を行っている。語彙が少ない場合は自分の思いが上手く伝わらず、コミュニケーションが上手く取れないため言葉を増やす活動を増やす等、それぞれの発達段階や特性に合わせてプログラムを決定している。	ご家庭でも取り組んでもらえるように、療育のねらいや目的を伝え、支援の内容を共有する。
2	個別療育のため、お子様の発達段階と特性に合った療育を提供できる。また個別であるため、保護者の方いつでも見学をしていただき、療育内容を共有することができる。	活動前にはスケジュールを視覚化すると共に、時間を示し、見通しをもって活動に参加出来るようにしている。また、1つの活動は15分以内とし、集中が途切れないようにしている。（療育時間は45分） ご家族が希望された時はいつでも参観をしていただき、参観後、療育内容についての説明とご家庭での取り組み方についてお伝えをしている。	療育内容を共有することでご家庭でも取り組み易くする。
3	就学前の年長児を対象としているため、学校をイメージした環境設定で療育を行っている。	学校の机、椅子を用意し、椅子のさげ方、文房具やファイルの使い方などの練習をしている。また、療育時間を準備も含め50分に設定し、学校の授業時間45分間は座って活動に参加出来るよう療育プログラム組んでいる。学校の環境を疑似体験することで学校生活がスムーズにスタート出来るように支援を行っている。	園や学校との連携を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団遊びなどルールのある活動を通してソーシャルスキルを高める療育は難しい。	個別療育のため、集団での活動は出来ない。	集団活動を行っている他事業所との並行利用をお勧めし、それぞれの強みを生かした療育を行えるよう連携を図る。（現在も行っている）
2	粗大運動など体を動かさず療育は難しい。	施設の構造上、運動療育を行うことが出来ない。（スペースや騒音等により）	体を動かさず活動が行える他事業所との並行利用をお勧めし、それぞれの強みを生かした療育を行えるよう連携を図る。（現在も行っている）
3			